

0.1 歳児の発達と実践の課題

－ 1歳半の節を乗り越えるために

宮里六郎（元熊本学園大学）

配布資料

- 1：0.1 歳児の発達と実践の課題（本資料）《当日使用》
- 1 ページ～ 表紙（配布資料一覧等）
 - 2 ページ～ ① 0.1 歳児の発達と実践の課題
 - 5 ページ～ ② 子育てワンポイントアドバイス 0 歳児
- 2：実績記録《事前に読んでおいてください》
- 1 ページ～ 表紙（分析メモの書き方）
 - 2 ページ～ ① 実践記録「人と関わるころよさをたっぷりと伝える」
 - 6 ページ～ ② 実践記録「0 歳児のコミュニケーション」
- 3：分析メモ（実践記録 1 件分）《事前に行ってください》
- ※ 分析は、①実践記録「人と関わるころよさをたっぷりと伝える」のみ
- 4：今日学んだこと 5 行（1 枚の半分）

○ オンライン中継の入口（インターネット URL）は、次の通りです。

伊佐市保育士等研修会 生配信 URL（前回と変わりません）

<https://www.city.isa.kagoshima.jp/blog/info-health/info-kosodate/26902/>

【参考】 令和 2 年度 伊佐市保育士等研修 スケジュール

研修テーマ	「子どもの発達を学び子どもの気持ちに寄り添う」	
日時・内容 (予定)	日時	内容
※感染状況により、変更になる場合があります。	第1回 9月16日(水) 18:30～20:30	3歳児の発達と実践の課題 ～ 一人前意識の3歳児、受けとめながら子ども同士の関係につなぐ
	第2回 10月14日(水) 18:30～20:30	4.5歳児の発達と実践の課題 ～ 関係に生きる4.5歳児、子ども同士の関係に働きかける保育を
	第3回 10月28日(水) 18:30～20:30	1.2歳児の発達と実践の課題 ～ 自我と表象が成立するする1.2歳児、気持ちを切り替える「間」を保障する
	第4回 11月11日(水) 18:30～20:30	0.1 歳児の発達と実践の課題 ～ 1歳半の節を乗り越えるために
	第5回 11月25日(水) 18:30～20:30	異年齢保育の動向と到達点 ～ 多様な人間関係から暮らしの保育へ

① 0.1歳児の発達と保育実践の課題

- 1歳半の節を乗り越えるために

1 ゼロ歳児の捉え直し - 有能性・主体性

1) 有能 - 無能

・他の高等哺乳動物と比べて人間の赤ちゃんは未熟で無能、それ故の発達の可能性
ポルトマンの生理的早産説、社会的子宮、特殊な時期
→大人が保護し世話しなければならない存在

・0歳児は無能な存在か？世話されるだけの受け身の存在か？

有能な(コンピテンツ)0歳児 発達の主体としての0歳児のとらえ直し

泣くこと - 呼び寄せることで感じる有能性

☆ホスピタリズム、サイレントベビー ☆おしゃぶりについて

・一見受け身に見える子どもの中に主人公としての力が蓄えられている

生理的微笑→微笑み返し→微笑みかけ

がらがらを振って見せてから、止めると自分で振ってみようとする

2) 表情を問い合わせる主体としての0歳児

10ヶ月くらいの子どもは、遊びながら、大人の表情をちらっとみて、「これをして いいの」「これはおもしろいの?」「表情の問い合わせ」をする。

0歳児は、大人に読みとられるだけの存在ではなく、0歳児自身が大人に問い合わせ るという主体的な存在である。 武藤隆『赤ん坊からみた世界』

3) 「間」の保障が主体性を育てる

11ヶ月頃の容器にもものを出し入れするあそび

「缶にやっこさ入ってコトと音がすると、アレッと本人、なにやら不安な表情 をするのね。

で、『わーじょうずね、できたね』と拍手してやるととてもにっこりいい顔になる。わーすごいとやってしまっまに本人がアレッと感じる『間』が大切」+いないいないばあーあそび

II 人見知りの意味 7, 8ヶ月

岡本夏木「子どもとことば」シグナルの意味が読みとれない見知らぬ人への不安
人見知りのとらえ直し

白石正久「発達の扉」見知らぬ人と友達になりたいけれど怖いという矛盾

子どもは見知らぬ人に不安を持つばかりでなく、新しい人とのつながりを持つ としてい
る主体的・能動的な存在。それ故の不安と矛盾。

「甘やかすすぎるからあなただけになつて、あなたがいなくて大変なんだから」

困り込みではなく、心理的な拠点を土台に(担当制)、2番目の拠点づくり

☆担当制←リーダーとサブ、交代制 ←全員担当制<共同責任は無責任>

機能性の検討→ゆるやかな担当制 連絡帳の記入責任者

III 情動的交流 - 目で学び、目を合わせ、まなざしを共有する

1) 目を合わせるだけでなく、まなざしの共有を

- ・子どもは目で学ぶ - 見える世界、正面の世界の充実
まっすぐな視線、射るような視線、ほほえみ返し
- ・目を合わせることで、気持ちを合わせる、アイコンタクト - 目は口ほどにものを言う ☆授乳
- おっぱいの位置、目を合わせやすい位置
飲み方 - 吸うのをやめて母親の顔をじつとみる、見つめ交わす、会話
- ・同じモノを見ることで同じ気持ちになる ☆ 共鳴動作の実験
まなざしを共有する手段としての「おんぶ」の意味
- ・まなざしの会話(伊藤洋子) 感動を伝えるまなざし、報告や確認のまなざし、
助けを求めるまなざし、共感を求めるまなざし ←表情の問い合わせ
- 2) 通じ合いたいと思えば、通じ合えるという根拠のない確信 - 情動的交流の原点
通じ合いたいという気持ちが通じ合うという感覚を育てる
なぜことばのわからない赤ちゃんに話しかけるのか? - 一人二役が初語の土台
☆ある障害を持った子の例 あやすという行為

IV ことば・コミュニケーション - 三項関係の成立と指さし

- 1) ことばの構造 - 音としてだけでなく対話の構造として
 - ① 対話の構造 - 三項関係の成立
「話し手(自分)」「テーマ」「聞き手(相手)」
 - ② 音 - 喃語(音を聞き音を出す練習)、構音調節 - 囁むこと
 - ③ 意味の理解 - 通じ合うことの意味
→ 初語(有意味語)
- 2) ことばの土台としての三項関係
自分と「人」、自分と「もの」の二項関係から、
自分と「人」と「もの」の三項関係へ
☆ 三項関係を育てるやりとりあそび・チョウダイ - アリガトウあそび
おもちゃで遊ばせるのではなくおもちゃで遊んであげること
- 3) 指さし
三項関係の成立を土台とし、ことばの前兆としての指さし、
伝えたい内容が自分の身体から離れて抽象された行為としての指さし
・ 何かを見つけたという気持ちを指さしで表出する「定位の指さし」→ 初語の前兆
相手に聞かれたモノを探して指さし「可逆の指さし」→ 爆発的な言葉獲得の前兆
- 4) ことば獲得期の対応
 - ① 表現言語より理解言語が先 ② 行為にことばを添えて ③ 一語くれたら二語かえす

V 身体の発達

- 0歳代の全身運動の発達
首がすわる→寝返り(仰向け・うつ伏せ)→はいはい→高這い・伝い歩き→一人歩き
☆ 正面の世界の充実 - モビール<オルゴールメリー> 目線
☆ 「はいはい」の重要性、うち倒しもち 歩行器
☆ 体の固い子柔らかい子、歩き方が変、声 ☆ 身体的主人公が自我の芽生えの充実
- 0歳代前半 - 自力で身体を移動できない

大人との情動的交流 - 「泣く」ことの意味(有能観)、おはしゃぎ反応

まなざしの共有とまなざしの会話

有能性

あやしあそび(いないいなばあ)、姿勢の移動

0歳代後半 - 自力で姿勢を変え目標に向かって身体を移動

7, 8ヶ月 人見知り

9, 10ヶ月 指さし

VI 1歳代前半の発達の課題 - 1歳半の節を乗り越えるために

1) 身体的主人公に

<身体の変化> 堅すぎる子、柔らかすぎる子

走るように歩くテテ君、大声で呼べない、ひそひそ話ができない

☆歩く土台としての「ハイハイの力」

☆ブラブラ散歩 - 歩くことを楽しむ散歩(段差) → めあてを持って歩く散歩へ

☆めあてをもって歩くことで身体のコントロール・身体的主人公 自我の芽生え

小さなめあてと大きなめあて(呼びせと後押しの散歩) 目当ての持ちにくい帰り

★配り活動:

行って、止まって、渡して、戻る活動

2) しつけの土台としての食欲を育てる保育を

① 覇気のない子ども - 衣服の着脱、言葉をかけるとやるが言葉をかけないと止まる

意欲の見られない子どもは、食欲もない子? 米粒5つしか食べない子、

☆手づかみで食べることの保障<意欲と見通し>

・ 11ヶ月前後の手づかみをさせてる母親30%

この時期、子どもが「さわりたい、自分で食べたい」と手づかみで食べることは、意欲をはぐくみ自立を促すために非常に重要なこと。食欲は意欲の源泉である。いつも大人に食べさせられている子どもと手づかみで食べることを保障されている子どもでは毎日にことだけに大きな違いが生まれる

② 意欲と見通し - 生活リズムとみとおし

・ 月曜日に見られる意味づけられないパニック - 朝食ネグレクト、日曜ネグレクト

食事・睡眠など生活リズム - 同じことを繰り返すことで見通しが育つ

・ 意欲の前提としての「達成感」そのための大人の共感

3) こだわりを育てる 感情コントロールの土台としてのこだわりの喪失

手持ちおもちゃの実践

公的な場所に私的なものを持ち込むことで、居場所とこだわりを育てる

4) 「泣く」ことで感情コントロール

「泣かせない保育」より「泣きながら感情をコントロールする力を育てる保育」を

抱き方の工夫、おもちゃの活

② 子育てワンポイントアドバイス

- 通じ合えるという確信が子育ての原点 < 0歳 >

思いこみのなせる技

赤ちゃんは言葉がわからないのにどうして話しかけるのでしょうか。1歳前後に見られる初語(意味のある言葉)は「マンマ」「ママ」「パパ」が多いそうです。こどもは本当にママとかパパといっているのでしょうか。そう言って欲しいからそう聞こえるだけではないのでしょうか。そう聞こえるからママといったパパと言ったと喜び、何度も言わせているうちに本当にママやパパと呼べるようになったというのが真実のような気がします。

オムツを替えながら「シーしたね」「気持ちよかったね」といろいろ話しかけます。でも当の赤ちゃんは反応なし。さみしい、でも通じ合いたいという思いから、「バッチイ、バッチイ」と赤ちゃんの分も自分で話しはじめ、いつの間にか一人二役で会話しています。このうちの赤ちゃん言葉の部分が言葉獲得の土台になっているのです。わが子と通じ合いたいから話しかける、一生懸命話しかけているときと通じ合えると信じているから言葉のわからない赤ちゃんに話しかけるのではないのでしょうか。

目を合わせるだけでなくまなざしの共有を

言葉のない赤ちゃんと通じ合うためには、「目は口ほどにものを言う」といわれるとおり、目を合わせる事が大事です。赤ちゃんは人間の顔のような丸いものと、顔の中でも動く「目」に興味を示すからです。お乳を飲みながらお母さんの顔を見上げ、気持ちよく飲ませるために赤ちゃんを見つめる授乳の姿勢は目を合わせるのに好都合な姿勢です。

しかし、目を合わせるだけでは不十分です。赤ちゃんをお風呂に入れて目を合わせます。じっと見つめ合った後ゆっくりと視線を動かします。赤ちゃんも追視してきます。目がはなれたその先にあるお花を見ながら「お花きれいね」と話しかけます。目を合わせてもお花を見ないで「きれいね」というより同じお花を見て「きれいね」と言った方が通じ合うのです。気持ちが通じ合うためには、目を合わせるだけでなく、同じものを見て気持ちを共有すること、つまりまなざしを共有することが大事なのです。

会話の土台としてのやりとりあそびを

ことばの獲得過程は、音としてだけでなく会話の構造として考えると解りやすいです。会話は「話し手」と「聞き手」が「テーマ」をやりとりすることで成立します。オモチャで遊んでいる赤ちゃんを抱っこしてあげると、オモチャを落として抱っこされていたのが、オモチャを持ったまま抱っこされそのオモチャで遊んでもらおうとします。自分と「人」・自分と「モノ」の二項関係から、自分と「人」と「モノ」の三項関係の世界に移行したのです。会話の構造と同じ力が育ったのです。この三項関係につながるのが、チョウダイ-アリガトウのあそびやボールを転がしなどのやりとりあそびです。テレビやラジオを聞かせるよりもお母さんとのやりとりあそびがことば獲得につながります。オモチャも買って与えて一人で遊ばせるのではなく、おもちゃで遊んであげることが大事なのです。

三項関係が成立すると、何かをみつけてそれが欲しいと「アッアッ」と言いながら指さしをします。指さはことばの前兆です。ご安心してください。指とモノとの見えない空間が、抽象的なことばへと発展するのです。子どもがことばを獲得するまでの過程じっくりと味わいじっくりとつきあって欲しいですね。

2011. 10. 25